

『題詠俳諧明治千五百題』について

－同時代の類題句集との比較による考察－

A study of “Daiei-haikameijisenngohyakudai” : Consideration which based on comparing anthologies of Haiku which was published at the same period

学籍番号：201721680

氏名：田中 鞠衣

Tanaka Marie

『題詠俳諧明治千五百題』は、明治15年(1882)に俳諧師である松田聴松によって編集された類題句集である。当時としては珍しく人名録と発行書林の両方が付されており、明治期に刊行された今人の句を纏めた類題句集の中では最も大きい題数を書名に使用しているが、これまで同書が詳細に取り上げられたことはなかった。今回調査を行った結果、以下の点が明らかになった。

(1) 俳諧初心者に活用してもらうことを意図して、本文は神釈・名所・懐旧・詠史・賀章・追悼等の前文が記載された後に句が掲載されている。また、当時生み出された言葉や珍しい季題を多く掲載するよりは、句作の場面でよく扱われるような季題を多く掲載している。

(2) 実際に掲載されている題数は、書名題数の約半分である858題となっている。また、完全に新暦に従って季題が分類された類題句集とは言えない。

(3) 人名録に掲載された俳人、発行書林に掲載された書店は共に全国に分布している。

(4) 諸本により、見返しや奥付の記載情報が異なる

以上の点から、『題詠俳諧明治千五百題』は、俳諧初心者への活用を意図して作成され、当時全国規模で普及した可能性が高く、需要が高かった類題句集として位置付けられる。

今後の課題としては、1つ1つの類題句集に対する分析を積み重ね、共通する点、異なる点を明らかにし、明治期に刊行された俳書の全体像を解明することにつなげたいと考える。

研究指導教員：綿抜 豊昭

副研究指導教員：白井 哲哉